

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 加賀福祉サービス	南出紀良	JA加賀を母体とした事業所で、法人として居宅系サービス事業も提供しています。隣接の畑で地域の方々の協力をいただき野菜を育て、その過程を楽しんでいただけるようにしています。「家におりたい」というご本人の言葉を大切に、特別な支援ではなく普段と変わらない穏やかな1日を‘えがお’で過ごして頂けるように法人理念をもとに取り組みんでいます。
事業所名	小規模多機能ホーム なんごうえがお	南出明子	

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	4人	人	人	1人	人	2人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	‘出来ていない’項目から‘出来ている’にする為に、取り組むことを明確(デジタル化)していく	‘あまり出来ていない’ほとんど出来ていないに該当する割合が全項目を通し3割いる。	多くのことに取り組まなければならないが、出来る項目を絞って実行していくほうがよいのではないかと思う。	特定の職員だけでなく、全職員が関わりをもてるように必ず出来ること計画していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	本人・家族アンケートを実施していき、今後の取組みの検討項目としていく	アンケート実施が出来ていない	いろいろな意見はもらえたらよい。	ご本人・ご家族アンケートを9月までに実施集計し、今年度後半の取組みに活かす。
C. 事業所と地域のかかわり	老人会や敬老会、おたっしやサークル、地域型はつらつ塾に定期的に挨拶や参加や訪問していく。知名度を広げるためにもサロンを検討していく	特定の職員だけがサークル等に出席している。定期的に参加していないため関係性確立まで出来ていない	いろいろな会合に参加していくことは大切。知名度は上がってきていると思う。	各おたっしやサークル、サロン、はつらつ塾の担当を決め、毎月職員会議で訪問計画を発表し参加報告する。また各町の老人会や婦人会にも訪問していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	具体的な目標回数を設定し、地域イベントだけでなく近所の散歩に出かける機会を増やす取組みを行う	今まで通りの取組みを継続でよい	今まで通りの取組みを継続していくことでよい	1年に1回、ご利用者の自宅に担当者が伺い、ご家族も交えた話し合いを行い、実際どのような生活をされているか図化(軒下マップ)させていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	有線放送をかけても疑問に思われないように、地域に出向く計画をデジタル化した目標設定をたてる。子ども110番の家として出来ることを考えていく	具体的な活動計画を立案していなかった為、会議の場で相談できないまま経過していた。	いろいろな話が出来るところになればよい。	高齢者だけのことでなく南郷地区のまちづくりの上で、ニーズや課題について話し合える‘地域ケア会議’の開催を目指す。

F. 事業所の 防災・災害対策	防火だけでなく風水害や土砂災害について訓練実施の話し合いもしていく	南郷地区防災訓練にご利用者と職員3人で参加できた。事業所防火訓練に地区防災リーダーの方に参加していただけている。	地区としてもしっかりしていかなければならない。継続して訓練していくことが大切。	防火管理者を中心に1年に2回だけでなく、回数を増やして開催していく。
--------------------	-----------------------------------	--	---	------------------------------------

